

## 「OPIテスターへの挑戦で学んだこと」

泊 史

OPI テスターの卵として OPI インタビューをこなすうちに、学んだことはたくさんあります。そのなかでも、OPI のよさとしてもとりあげたいことは、OPI インタビュー自体が学習の場になる可能性が高いということです。

幅広い質問ができるようになること、対話相手の発話を待つ間の取り方を学べること、対話相手への観察力が高まることなど、インタビューをする側だった私自身とても実感しました。自分が成長できたと思います。

今回、OPI のよさとして強調したいのは、OPI でインタビューされる側である被験者にも学びの効果があるのではないかとことです。もしかしたら、被験者のほうが、1 回のインタビューでの学習効果は高いかもしれません。なぜ、このように私が思ったのか、以下にまとめてみます。

第一に、OPI インタビューが終わった後に、悔しそうな表情を見せたり、悔しさをそのまま口にする人が多かったことです。これは、インタビューを受けているときに、知っている単語だったのにインタビューを受けた際にはとっさにその単語が出てこずに、インタビュー中（あるいは、インタビュー後）に出てこなかった単語を思い出したりした場合や、インタビュー中に言いたいことがうまく説明できなかったなどのもどかしさが悔しさという感情を呼び起こしていたのではないかと想像します。そういった悔しさは、向上心があってこそ湧き上がるものでしょうから、OPI インタビュー被験者のその後の日本語会話力は悔しさをばねにして向上していくのではないかと思います。実際、OPI インタビューが終わった後に、その場で辞書を調べ始める人、分からなかった単語や表現をすぐ私に聞いてくる人が多くいました。OPI インタビューを受けた経験が、学習意欲に火をつけたのは間違いないと思います。

第二に、OPI インタビュー後、OPI インタビューの感想を尋ねると、「自分の日本語力はまだまだだと思った」、「単語だけで答えてしまって、文でちゃんと答えられなかった」、「抽象的な話をするときの語彙が足りない」など、自分の日本語会話力を振り返り、自分の課題について見つめる答えがたくさん出てきました。また、「インタビュー中、自分の日本語にどこかおかしいところはなかったか?」、「間違えたところを教えてほしい」など、自分の日本語会話力の課題を客観的に指摘してほしいという要求もありました。OPI インタビューが自分の課題を見つける機会になっているのだと強く思わせられました。自分の日本語発話力の課題について自覚的な人は、おそらくその課題を克服するために努力し、日本語発話力を高めていくのではないのでしょうか。

また、「もう少し日本語を勉強した後に、また OPI インタビューを受けたい」と申し出てくれた人も何人かいました。OPI インタビューは学習動機付けが高まる場、学習する場、学習効果を確認する場にもなる。このことを私は OPI テスターへの道の途中で実感できました。今後、OPI インタビュー被験者に「OPI インタビューを受けたよかったのは何か?」等を聞き、その結果をまとめていくことなども考えています。私が思っている以上に、OPI インタビューは学習の場であることが結果として出てくる可能性もあるかもしれません。